

こんにちは

会社訪問記

中間処理プラントの開発・販売を中心に、
完全リサイクルシステムの構築をめざします。

株式会社タツノ開発

(愛知県半田市)

収集運搬から中間処理、最終処分にいたるまでトータルに産業廃棄物処理に携わる株式会社タツノ開発。しかし、中間処理プラントの開発メーカーであることはあまり知られていません。半田市にある本社に伺い、処理業務のことやプラント開発について森下社長、河合副社長にお話をお聞きしました。

——創業は何年でしょうか。

森下社長（以下森下に略）
『昭和54年です。まだまだ若い会社ですね。』

——処理業者兼中間処理プラントメーカーだということですが、事業内容を教えていただけませんか。

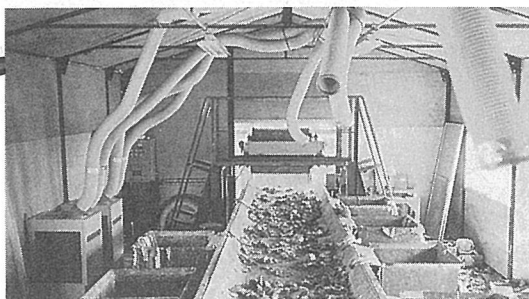


森下社長

森下『産業廃棄物処理業としては、収集運搬、選別・破碎・溶融・焼却を行う中間処理から最終処分、リサイクルを行っています。また、環境関連機器の製造・販売も業務のひとつに入っています。当社はメーカーですが、開発製品の大半は相手先ブランドによる販売をしております。また、破碎機や各種中間処理プラントの販売代理店でもあります。先日、当社の建設廃棄物の総合処理プラントが完成いたしました。この中でも破碎機と自動選別システム以外はすべて自社製です。焼却炉は、全国の多くの産廃業者さんにご使用いただいています。また、自社の焼却炉も5基所有しています。』

——昨今は建築基準法第51条の関係で建設が難しいようですが、この点はどのように。

河合副社長『とにかく、法の規準に則した仕様であることはもちろんですが、設置する地域住民の皆さんが納得いくまでしっかりご説明することでクリアいたしました。』



砂刈中間処理場

森下『この号が出るころにはまたひとつ建廃用の焼却炉も完成しているはずですよ。』

——では、仕事を行うにあたり特に注意をしていることがあれば教えていただけませんか。
森下『社員教育にも関連することですが、排出事業者の事業所に伺い産廃物を積み終えた後を必ずほうきで掃除を行ってくるようドライバーに徹底指導しています。また、当社中間処理施設や最終処分場のまわりや搬入車両が通る道を、毎日巡回して掃除、草刈り等を行っています。』
——では最後に、今後の事業展望をお聞かせください。

森下『現在、保有している焼却炉にはサイクロンの集塵装置のみのものがあり、これを早期に自社製スクラバー装置を導入すること。一部着工していますが、積み替え保管選別プラントを県下数カ所に設置すること。そして、開発中の焼却灰、ダスト、汚泥等の溶融プラントと廃プラスチック類の油化還元プラントを完成し、埋立処分中心の廃棄物処理から商業ベースにのる完全リサイクルシステムを確立することの3点が今後の達成目標です。』



社名/株式会社タツノ開発

所在地/愛知県半田市岩滑町西町4丁目43番地の2

代表者/森下松夫 創業/昭和54年 従業員/40名

TEL/0569(23)0229

事業所/本社、名古屋支店、豊田営業所、2埋立処分場、3中間処理施設

取扱品目/燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、鋳さい、建設廃材、ダスト類、感染性産業廃棄物、引火性廃油、腐食性廃油、腐食性廃アルカリ